opusdei.org

黙想:聖ミカエル、 聖ガブリエル、聖ラ ファエル大天使(9月 29日)

黙想のテーマ:「聖ミカエル、神の力」「聖ガブリエルのメッセージ」「聖ラファエル、明朗な若者」

2025/09/28

聖ミカエル、神の力

聖ガブリエルのメッセージ

大天使聖ミカエルは、旧約聖書で、 神から遣わされて選民を敵から守っ たものとして紹介されています。黙 示録は悪の力に対して続けた戦いに 関して語っています。「天で戦いが 起こった。ミカエルとその使いたち が、竜に戦いを挑んだのである。竜 とその使いたちも応戦したが、勝て なかった。そして、もはや天には彼 らの居場所がなくなった| (黙示録 12・7-8)。キリストは悪魔に勝利し ました。そしてこの大天使は悪魔を 打ち負かします。大聖グレゴリオが 述べています。「ミカエルとは、

『だれが、神のようなものか』という意味であり、(…) それで、不思議な力を現わすようなことが行われる場合には、いつもミカエルが送られるといわれる。それは、その行為と

名前から、神の行いうることを、人はだれも行い得ないことを理解させるためである」ITI。聖ミカエルに、ある使命を委ねることは、それが主だけにできることだ、ということです。「聖ミカエルは勝利します。彼のうちで神が働くのですから」[2]。

聖ホセマリアは、自身の子たちに 言っていました。「あなたがたの誰 も一人ぼっちではありません。ばら ばらの一行詩ではなく、同じ詩、神 的な叙事詩の一行なのです」
[3]。全 てのキリスト信者はキリストの神秘 体・教会に属しています。今日は特 に心を込めて、天軍の総帥であるこ の大天使に、全ての人を見守り、戦 う私たちを助け、悪魔の悪だくみか ら逃れさせてくれるよう頼みましょ う国。勝利を確信して願うことで す。「昼も夜も我々の神の御前で 我々の兄弟たちを告発する者が、投 げ落とされたからである|(黙示録 12·10)。聖ミカエルとの関わりを強 めることは、神の力に対する信仰を深め、私たちをより謙遜にし、神ご自身との一致を次第に深めるでしょう。「わたしの骨はことごとく叫びます。『主よ、あなたに並ぶものはありません』」(詩編35·10)。

教会のカテキズムは、「天使は全存 在をあげて神に仕える者、神の使者 ですしたと言っています。彼らは仕 えることだけに専念します。主のご 計画に喜んで協力し、それを人々に 伝えるためにいるのです。また、あ らゆる使者のうちに、ガブリエルの ようなものはいません。その名前は 「神の力」を意味し、主の使者とし て、いろいろな機会に主の贖いの計 画を伝え、その実現に協力する人を 招くため、送られました。例えばこ の天使はザカリアに言います。 1わ たしはガブリエル、神の前に立つ

者。あなたに話しかけて、この喜ば しい知らせを伝えるために遣わた預 者がこれもこの大天使につれる 者がこれもこの大天使につれる で見たるで見たるいます。「先の幻で見た者 いなわちが飛んで来を さいますがれた。それは き、かたしに触れた。それは がのころであった。彼は、言が はに理解させようとしてこう覚め しに理解させよいよ、お前を目覚め た。『ダニエルよ せるために来た』」(ダニエル9・ 21-22)。

聖ルカは、大天使の挨拶に驚く聖マ リアのことにふれ、天使が答え、恐れ を記しています。「マリア、られることはない。あなたは神からずさい。だけいた」(ルカ1・30)。 落ちめていたがいた。 本望をもって対処するにいるでいる。また、お告げの時のように、おきないがあるときも、彼は「神

にできないことは何一つない」(ルカ 1・37)ことを思い出させてくれま す。常に私たちの内的戦いの大切な 支え手なのです。聖ホセマリアが書 いています。「まるで世界全体があ なたの上にのしかかってくるよう だ。辺りを見まわしても出口のかげ さえ見えない。今度こそ駄目だ、こ の困難を乗り越えることは…。神は あなたの御父であることをまたもや 忘れたのか。全能にして、無限の 知、あわれみ深い父であることを。 主があなたに悪いことなどお送りに なるはずがない。あなたを悩ますそ のことは、あなたのためになるの だ、今、(肉眼では)、それは分から ないだろうけれども… | 「61。大天使 ガブリエルは、神のみ旨を知らせ、 それだけが私たちに喜びと平和をも たらすことを理解できるように助け てくれます。

トビト夫婦は、若い息子を、危険に 満ちている道中を遠い街まで一人で 行かせることを気遣い、離れたとこ ろから同伴するだけでは不充分だと 思っていました。そんな時、「どの 街道も良く知っています|(トビト5・ 6)と言って、息子に同伴する心づも りのある明るい若者が現れたのです (トビト5・10参照)。大天使聖ラファ エルです。彼は若者トビアの道連れ になり、様々な事柄から学ぶことを 教え(トビト6・1-9参照)、サラとの結 婚をためらう彼を恐れないように励 まし(トビト6・16-18参照)、彼女を妻 に迎え愛するように諭し(トビト6・ 19参照)、こうして、彼の両親の喜び になるよう助けました(トビト11・ 9-15参照)。

トビアと共に務めを果たしたことから、聖ホセマリアは、オプス・デイの使徒職の〈瞳〉として大事にしていた若者との使徒職を、大天使聖ラファエルに委ねることにしました。

若者のキリスト教的な形成は、教会 とオプス・デイにおいて優先させる べきことです。次の世代も、私たち に平和をもたらしたものと同じもの を切望するはずですから。全てのキ リスト信者は、どんな形にしろ、福 音の喜びの種まき人としての使命を 与えられています。私たちは、多く の若者たちを助けるよう招かれまし た。それは「彼らが一今、そして今 後の人生において一家庭や専門職、 社会に広がる人間の様々な生活分野 で、キリスト教的な酵母となるよう に | m するためです。

「様々な試練のある人生途上で私たちは一人きりではありません。神の天使たちが同伴して支えてくれているのです。言うなれば、彼らの翼雄を乗り越え、私たちの人生を重苦しくしたり、つまらないことに引き寄せたりする現実から、高く飛翔できるよう助けるためにあるのです」 [8]。三大天使は、人

生の最期まで私たちに同伴してくれるでしょう。そして、そこ、天国で 天使の女王であられる聖母を見つめることができるのです。

- [1] 大聖グレゴリオ、 熊谷賢二訳 『福音書講話』、創文社、1995年、 212頁。
- [2] フランシスコ、一般謁見演説、 2013年7月5日。
- [3] 聖ホセマリア、説教、1961年3月 12日。
- [<u>4</u>] 大天使聖ミカエルに対する祈り 参照。
- <u>[5]</u> 「カトリック教会のカテキズム」329番。
- [6] 聖ホセマリア『十字架の道行』 第9留、黙想のしおり4。

[7] フエルナンド・オカリス、司牧 書簡、2018年6月8日。

[8] フランシスコ、一般謁見演説、 2013年7月5日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-san-dai-tenshi/ (2025/11/06)